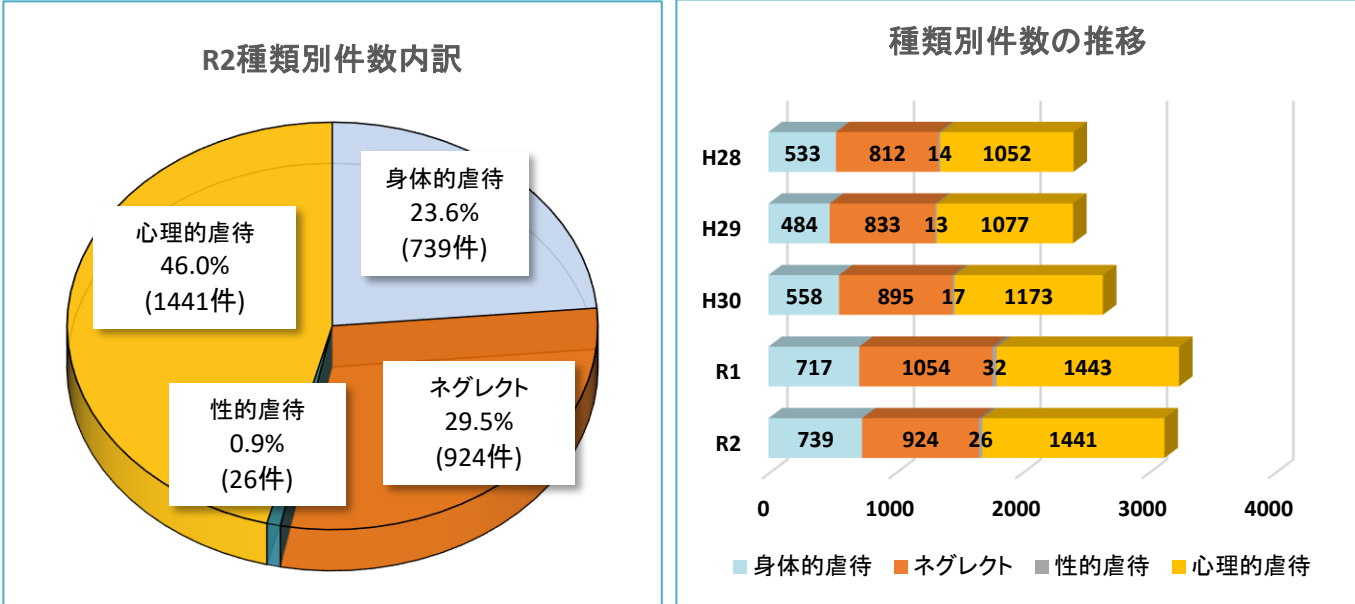
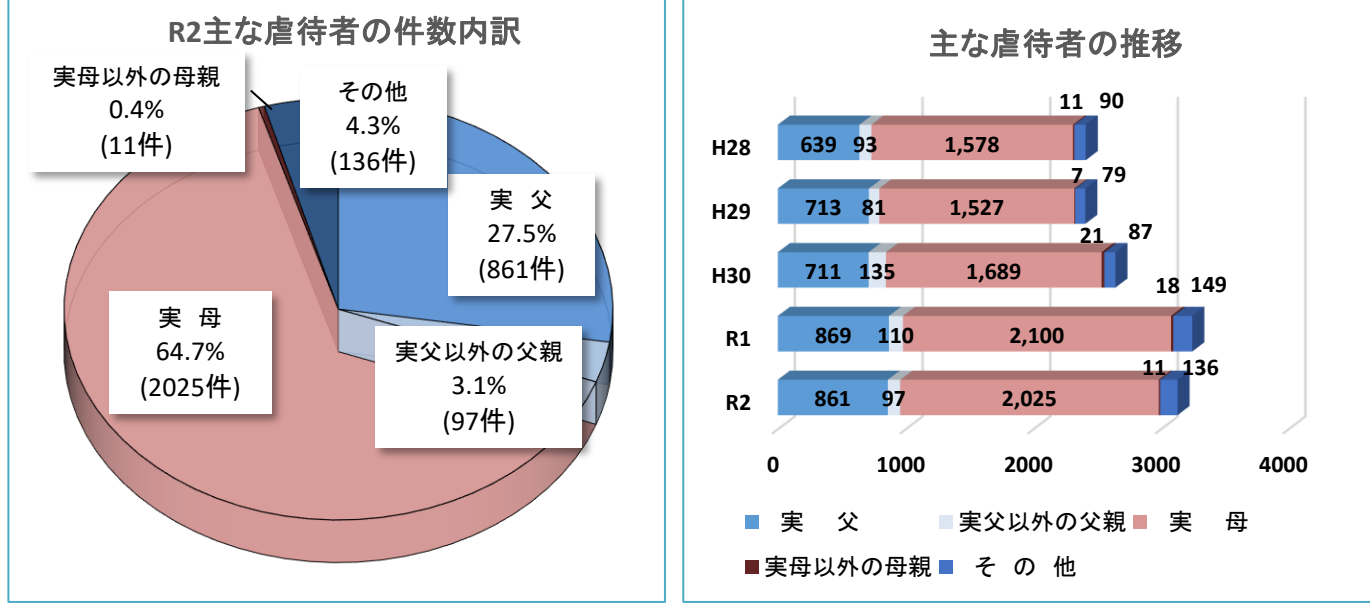


虐待の種類



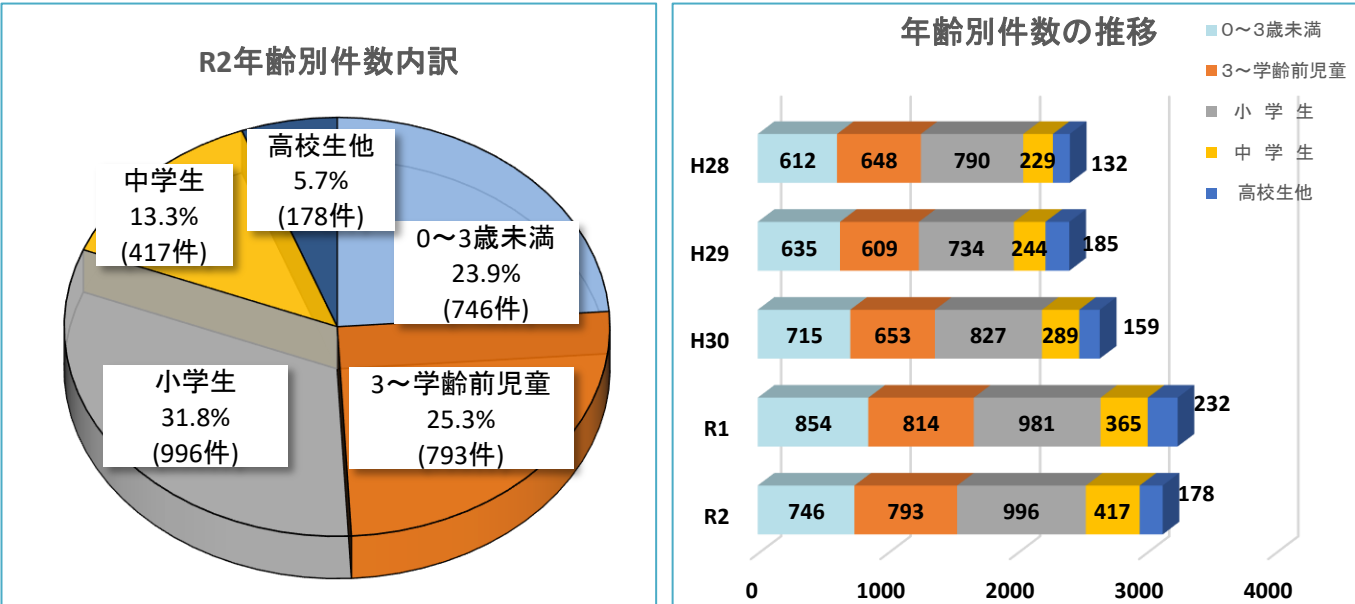
「心理的虐待」が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。前年度と比べると、「身体的虐待」が3.1%増となっている。一方で、「ネグレクト」が12.3%減となっている。

主な虐待者



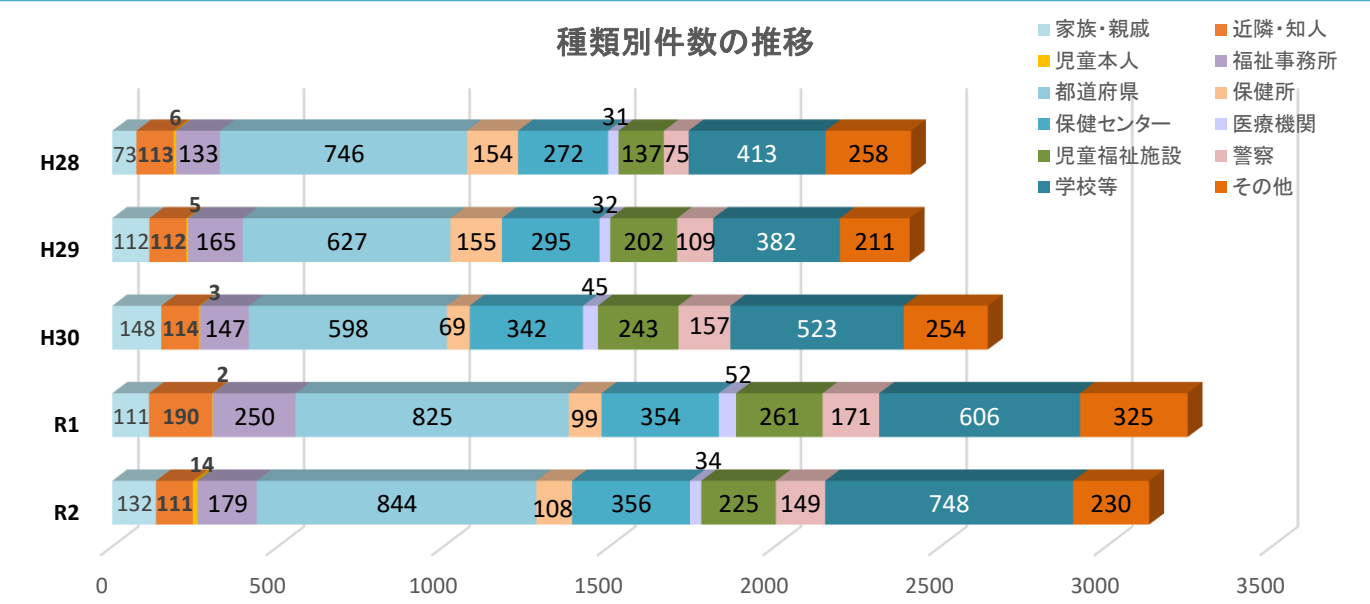
「実母」の割合が最も多く(64.7%)、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の9割を超えている。前年度と比べて割合に大きな変化はない。

被虐待児の年齢



「0歳～学齢前」の児童が、全体の約半数を占めており、前年度と同様の傾向がみられる。また前年度と比べると、「中学生」は14.2%増となっているが、年齢別の割合の傾向については前年度と同様である。

虐待通告の経路



「都道府県」からの通告が最も多く、次いで「学校等」「保健センター」の順に多い。前年度と比べると、「近隣・知人」は41.6%減と大幅に減少している。一方で、「学校等」が23.4%増と増えている。